

教育長 様

校番 032 沼南 高等学校長
(全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和5年度 実施報告書**

1 学校の教育目標等

(1) 教育目標

令和5年度は「対話 体験 探究 みんなちがって、みんないい。みんなが輝く沼南高校」を教育目標に掲げている。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

育てたい生徒像を「自他を大切にし、社会人として必要な「対話力」を身に付け、地域と社会に貢献できる生徒」とした。

(3) 学科等の特色

家政科、園芸デザイン科ともに、それぞれ県東部唯一の専門学科である。

家政科は、豊かな感性、思いやりの心を大切にし、生活関連分野のスペシャリストの育成を目指しており、被服・食物類型と保育・福祉類型に分けた教育活動を展開している。被服・食物類型では、被服・食物の分野を体験的な学習を通して学び、確かな技術を身に付け、生活をコーディネートできる生徒を目指している。また、家庭科技術検定三冠王（和服、洋服、食物調理1級）を目指す生徒もいる。保育・福祉類型では、保育・福祉の分野を体験的な学習を通して学び、福祉マインドを育み、地域社会へ貢献できる生徒を目指している。家庭科技術検定の取得を目標にしている。両類型ともに日本語ワープロ検定、サービス接遇検定も受検している。

園芸デザイン科は、作物栽培の体験的な学習を通して「食料・農業・環境」に関わる知識と技術を学び、地域農業や地域社会に貢献できるスペシャリストの育成を目指している。園芸活用類型では、草花の栽培からフラワーアレンジメント・ガーデニングおよび園芸福祉活動への活用について学び、草花を通して豊かな生活を提供する力を身に付けることを目標にしている。園芸技術類型では、地域の基幹作物であるブドウの栽培を中心に、各種園芸作物の栽培に関する知識と技術を習得し、地域農業の課題解決に積極的に取り組む姿勢を身に付けることを目標にしている。日本農業技術検定、フラワー装飾技能士3級、日本語ワープロ検定などの資格取得を指導している。

2 研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

家庭に関する学科と農業に関する学科の学習には相互に関連性のある内容がある。これを課題発見の材料とし、共通課題を設定し生徒が共同で作業し学習に取り組むことを通して、課題解決に向け探究する能力と態度を育成する。学習成果物を継続的に蓄積し、ルーブリックによる評価を行い、学校目標である対話力の育成を図る。

(2) 1年後の目指す学校の姿

福山市域で唯一の家庭に関する学科及び農業に関する学科からなる専門高校として、地域産業や地域社会の発展に貢献することができる人材育成を目指す。実習等の体験的な学習をはじめとした職業人教育を通して、地域の企業が必要とする社会人としてのコミュニケーション能力や主体的に取り組む態度等の資質・能力を身に付け

させることのできるカリキュラムが構成されている。

専門高校としての強みを活かし、両学科が互いの学習成果物を活用するなど、学科の枠を超えた連携が推進されている。地域と連携・密着した体験活動やSDGs活動、地域の特産品や行事などの地域資源を活用した交流活動、本校生産物の販売活動などを通して、地域や社会との接続の機会をより一層充実させ、地域に根差した学校となっている。

(3) 令和5年度の目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・総合的な探究の時間と各教科・科目との関連を示すイメージ・マップが作成されている。
- ・学校として育成を目指す「対話力」についてルーブリックを作成し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・マスタールーブリックによる「対話力」の評価結果が目標値以上である生徒の割合が70%以上になっている。（目標値：1年生＝レベル1 2年生＝レベル2、3 3年生＝レベル3、4）
- ・アンケートの結果、「対話力」が向上した生徒の割合が80%以上になっている。

(4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

総合的な探究の時間・沼南キャリア（SDGs活動）

イ カリキュラム開発の概要

（マクロレベル）カリキュラム開発に先んじて、研究指定校の趣旨と取り組む内容を職員研修で再確認した。その上でマスタールーブリックの再検討を行った。さらに、研究指定校事業における研究教科の指定を受けた国語科・国語表現において研究授業と研究協議を行った。

具体的には8月に生徒の現状を踏まえて設定した育成すべき資質・能力、経営目標、育てたい生徒像、教育目標、研究指定校の趣旨と取り組む内容について、共通理解を促すため職員研修を実施した。この時、マスタールーブリックの検討も行った。検討した内容については、令和6年度からのマスタールーブリックに反映することになっている。9月に「イメージマップ」について職員研修を実施した。11月にはカリキュラム開発を促進し、対話力育成の実践を学校全体に広めるため、他校の学校魅力化コーディネート力養成研修者も参加して、研究指定校事業における研究教科の指定を受けた国語科「国語表現」で研究授業と研究協議を行った。これらの取り組みにおいては、指導助言者からアドバイスを戴き、魅力あるカリキュラムとなるよう検討を進めた。

（ミクロレベル）学校の教育目標や育成を目指す資質・能力の育成に向けて、総合的な探究の時間である沼南キャリアを核として、生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするための「対話力」を育成するカリキュラムとなるよう検討した。

具体的には、本校の家政と農業の2つの専門学科である家政科と園芸デザイン科が連携し、本校で栽培している農産物を活用し、課題発見と解決方法を考える中で、よりよい「対話力」を実践的に身に付けさせる学習展開について検討し、引き続き実施した。

教科においては国語科で取り組みを行った。9月～12月にかけて計3回、「単元テンプレート」と「シラバス」と「教材開発」について、指導主事からの研修を受けた。また、指導助言者からアドバイスを戴き、本校の育成したい資質・能力である「対話力」の育成と、国語科の指導事項との両立を図る授業構想を行った。国語科の授業において、家政科と園芸デザイン科の生徒の作品を交換して評価し合う活動を通して、学科間交流を生かした「対話力」の育成を目指した。

ウ 校内体制

既設のビジョン委員会を活用し、事業を推進した。

そのうえで、カリキュラム開発を全教員が参画して行うために、職員会議で全体への周知を行った。また、各教科・学科で取り組む内容について各教科会議で協議し、その内容を教科主任会議で共有し、それを踏まえてカリキュラムの見直し・改善を行っていった。生徒の学習状況の評価についても、必要に応じて各教科会議で検討した。

(5) 学習評価

核となるカリキュラムに関わる授業の前後および、「国語表現」の関連する単元学習の前後に、生徒アンケート

ト、ルーブリック評価を実施し、生徒の資質・能力の育成状況を見取り、その後の学習や指導の改善に生かせるよう工夫した。

(6) カリキュラム評価

カリキュラムを、ビジョン委員会を中心に、各教科会、担当者会でも検討した。

3 令和5年度の成果及び課題

(1) 成果

- ・「対話力」のマスタールーブリックは令和3年度に作成したものを引き続き使用し、生徒自身による自己評価に活用した。核とするカリキュラムである総合的な探究の時間（沼南キャリアⅠ・Ⅱ・Ⅲ）で、専門学科（家政科、園芸デザイン科（農業科））の特色を生かした学科間交流学習を全学年で実施し、継続可能な学習計画を作成できた。
- ・今年度は国語科でも学科間交流を実施し、総合的な探究の時間以外でも学科間交流学習を通じた「対話力」の育成を図ることができた。
- ・カリキュラムの開始・実施前後の生徒アンケートの結果、考える力は40%から87%に上昇し、目標値の80%を超える向上が見られた。記述式アンケートによると複数の生徒から「もっと考える力をつけたいと思った。」という記述があったことから、「対話力」の重要性を考え意識させることができ、指導が有効であったと考えられる。
- ・「総合的な探究の時間」だけでなく、他の教科や学校生活のあらゆる場面で教職員・生徒共に「対話力」の育成を意識付ける仕組みとして、「3つのまことんの掲示」を実施できた。
- ・8月の研修でマスタールーブリックについて再検討し、令和6年度からは改善したマスタールーブリックを使用する予定である。

(2) 課題

- ・核とするカリキュラムにおいては、より高度な「対話力」を目指し、教員から生徒への働きかけや生徒同士が互いに教え合う内容を具体化すること、課題を発見させるための内容を計画的に盛り込むこと、チェックシート、掲示、振り返りなどによりマスタールーブリックの活用の工夫を工夫することなどが課題である。
- ・国語科の他、「対話力」と教科特性との親和性が低い他の教科や「総合的な探究の時間」を含め、学校生活のあらゆる場面で教職員・生徒共に「対話力」の育成を意識した実践を行うことが必要である。

4 令和6年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和6年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・総合的な探究の時間と各教科・科目との関連を示すイメージ・マップが共有されている。
- ・学校として育成を目指す「対話力」についてルーブリックを作成・検討し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・マスタールーブリックによる「対話力」の評価結果が目標値以上である生徒の割合が70%以上になっている。（目標値：1年生＝レベル1 2年生＝レベル2、3 3年生＝レベル3、4）
- ・アンケートの結果、「対話力」が向上した生徒の割合が80%以上になっている。

(2) 令和6年度のカリキュラム改善の内容及び校内体制

ア カリキュラム改善の概要

総合的な探究の時間を核として、生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするための「対話力」を育成するカリキュラムの開発・改善を行う。

具体的には、本校の家庭と農業に関する2つの専門学科である家政科と園芸デザイン科が連携し、果樹、野菜、草花等の栽培、加工、商品づくりについて課題を見出させ、生徒が相互に教え合ったり、工夫し合ったりするを通して、課題解決を目指し、その改善方法を考える中でよりよい「対話力」を身に付けさせる。

イ 校内体制

ビジョン委員会を中心に、カリキュラム開発を全教員が参画して行うために、職員会議で全体への周知を行う。各教科・学科で取り組む内容について各教科会議で協議し、その内容を教科主任会議で報告し、それ

を踏まえてカリキュラム改善を進める。

生徒の学習状況の評価についても、必要に応じて各教科会議等で検討する。